

戦争と郷土豊橋を語る

日 時◆平成26年8月2日（土） 13:30～15:30

会 場◆中央図書館 3階 集会室

座談会◆「日露戦争と郷土」

新海真二さん（バルチック艦隊発見者の孫）

伊藤厚史さん（名古屋市教育委員会文化財保護室学芸員）

司会：広中一成さん（三重大学非常勤講師）

発表◆中部中学校1年生 新川小6年生時「平和の尊さを学ぶ」



137人の方にご参加いただきました。
座談会の前に、中部中学校の1年生3人が、新川小学校6年生の時に授業で学んだ「平和の尊さを見つめて」について発表しました。
生徒たちの声と発表は、会場の参加者を明るく元気にしてくれました。

←福島の小学校との交流や、戦争について学習した社会科授業などから「戦争のない平和な世の中になってほしい」と発表する西田芽衣さん、福井香穂さん、鶴見祐土さん



新海真二さんと広中一成さん

その後、座談会が始まりました。岡崎市在住の新海真二さんは、祖父の春吉さんについてのお話をされました。

春吉さんは、海軍の一等水兵として、仮装巡洋艦「信濃丸」に乗船。「信濃丸」のラストで見張りをしていた時に、ロシアのバルチック艦隊の煙を発見したそうです。直ちに電文が打たれ、そこから日本海海戦が始まりました。

司会の広中一成さんが聞き手となり、日露戦争についての説明を加えながら、当時の話が進められました。



説明する伊藤厚史さん（写真左）



真剣に話に耳を傾ける参加者の方々

続いて、名古屋市教育委員会文化財保護室の学芸員をされている伊藤厚史さんが、「戦争と郷土豊橋」のかかわりについて、自ら撮影した写真をもとに話をされました。
残された忠魂碑や墓標、乃木大将や東郷平八郎の銅像などから、当時をどのように理解するのか、その視点についてわかりやすく説明していただきました。
今後どのように過去の戦争を後世に伝えるのか、平和が続く今、継承の問題は大きな課題であると投げかけました。